



日本家族看護学会 NEWS Letter

発行日 2013.03.25
日本家族看護学会
広報・渉外担当 発行

日本家族看護学会ホームページに関する評価とニーズ調査（概要速報）

～第19回学術集会(2012年9月8日～9日)でのアンケート調査～

平成22年度～24年度広報・渉外委員会

今年は桜の開花も早く、卒業式には桜が満開のようです。みなさま、年度末を控えて何かと忙しい日々をお過ごしでしょうか？ 本学会広報・渉外委員会では、HPによる本学会の活動および家族看護学・家族看護実践の浸透に取り組んでまいりました。平成18年にはHPを全面的にリニューアルし、学会の活動を速やかに情報提供するよう努め、毎年20数回以上の更新を行っています。

リニューアル後の新企画として、「家族看護専門看護師教育機関」の紹介や「家族支援専門看護師の活動」を掲載するページを設けるとともに平成20年度からは学術集会に参加できなかった会員にも学術集会の様子がわかるように「web newsの発行」を開始し、平成23年度には「家族看護に関する情報」提供ができるよう広く会員の活動を紹介するページや会員の皆様からの「ご意見募集」コーナーを設けました。

このように広報渉外委員会は、HPの充実に、1)家族看護学・家族看護実践への認知度を高めること、2)家族看護

への興味関心をもち専門的に勉強をしたいと思う看護職を応援できる情報提供を目的としてきました。

平成22年度～24年度日本家族看護学会広報・渉外委員会では、その評価と学術集会参加者の本学会HPへのニーズを調査し、今後の活動の指針を得ることを目的にアンケート調査を実施致しました。アンケート調査を行うにあたり、日本家族看護学会第19回学術集会大会長 上別府圭子先生、ならびに大会事務局のみなさまには大変お世話になりました。紙面上ではございますが、委員会一同、心より御礼申し上げます。学術集会参加者830名のうち、アンケートには201名の会員・非会員の方々にご協力いただきました。回収数が若干少ないことは残念ではございますが、アンケート調査にご協力いただきました会員諸氏、ご参加の皆様には感謝申し上げます次第です。

家族看護学の担うべき役割・責務は、東日本大震災・福島原発事故後はより高まったと思われまます。社会に広く貢献すべく一歩ずつ前進し、発展させていきましょう。

Table with 2 main columns: I. 回答者の概要 and アンケート回収総数 201部. Rows include gender, age group, membership status, and affiliation.

I. アンケート回収の状況及びアンケート回答者の概要

回収数201部で、学会参加者数830名のうち、約4分の1であった。女性が94%を占めた。

年齢層では、30代次いで40代が多く、両年代で約7割を占めていた。20代は15%に満たず、また、大学院生の参加割合は8%と決して多くないことから、若い世代の参加が多いとは判断できなかった。なお、アンケート回答者と学会参加者の年齢構成が必ずしも一致しているとは限らない。しかし、今後の学会の発展を考えると

き、ひとつの課題は、20代の若い年代の会員や大学院生の会員をいかに獲得し、研究活性化の可能性を促進させるかであると考えられた。非会員の回答が半数弱を占め、会員からの協力が少ないことは残念であった。

I-2. 家族看護以外の専門領域

領域	人数	%
小児	55	27.4%
成人(慢性期)	34	16.9%
成人(急性期)	33	16.4%
在宅	16	8.0%
地域(公衆衛生)	14	7.0%
老年	12	6.0%
精神	9	4.5%
母性	7	3.5%
基礎	4	2.0%
その他	11	5.5%
未回答	3	1.5%
欠損	3	1.5%

II. ホームページ活用状況

閲覧経験の有無	有り	無し
	175	26
	87.1%	12.9%

アクセス回数

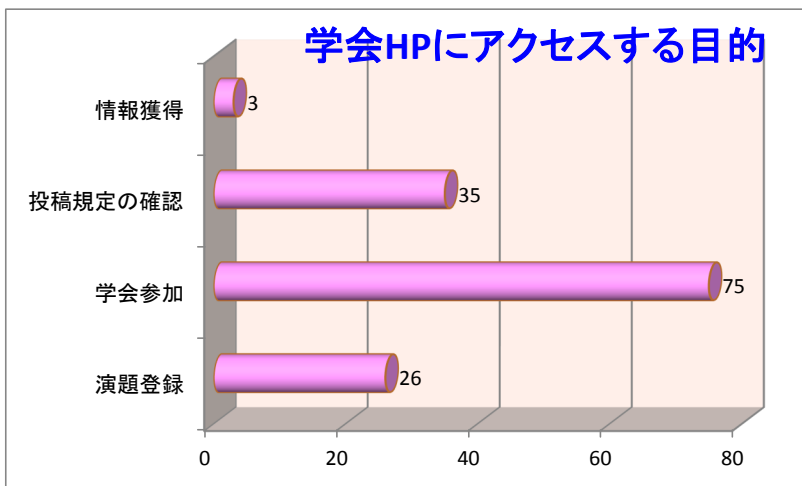
平均	5.98回
中央値	3回
最頻値	2回

II. 学会ホームページの活用状況

非会員も含めて閲覧経験は80%以上があり、アクセス回数の中央値は3回、最頻値は2回であった。年間の閲覧回数はばらつきが大きく、年間1-5回が59%、6-24回20%

所属別では、病院・医療機関等臨床看護師が約54%を占め、大学／専門学校等の教育機関に所属するものが30%強であり、保健福祉・行政機関の者がわずか2%と非常に少なく、課題の一つと考えられる。

学会参加頻度では、初めての参加者が多く半数弱を占めていた。一方、本学術集会上に「ほぼ毎回参加」と回答した者の割合はわずか20%であったことは大変残念である。初めての参加者は真面目にアンケートに回答してくれたために、見かけ上で参加割合が高くなった可能性は否定できない。学会参加者全体の背景を分析する必要がある。



25%↑2%であった。また、上図のように75%は学会参加が閲覧目的であり、目的の多様化が今後の課題である。尚、自由記載内容を含め結果資料はHPにアップ予定。(浅野みどり、古澤亜矢子、山本真実、甘佐京子、泊祐子)

日本家族看護学会

【事務局】

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
石川県立看護大学内
日本家族看護学会事務局

TEL・FAX：076-281-8374

<e-mail>

family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp

ホームページもご覧ください。

<http://square.umin.ac.jp/jarfn/>

日本家族看護学会

<広報・渉外担当>

泊祐子、浅野みどり、甘佐京子、山本真実、古澤亜矢子

第20回日本家族看護学会学術集会のご案内

日本家族看護学会第20回学術集会は静岡で開催します。

テーマ 『変容する家族への支援』

日時：2013年8月31日(土)～9月1日(日)

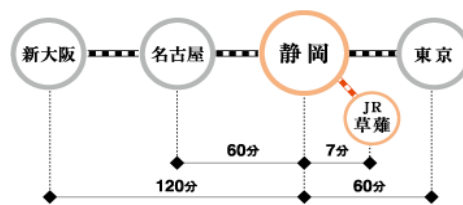
学術集会長：式守晴子(静岡県立大学看護学部副学部長)

会場：静岡県立大学(静岡市駿河区谷田52-1)

交通アクセス：

JR「草薙」駅、または静岡鉄道「県立美術館前」駅、同「草薙」駅から徒歩15分

多くのみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。



■ 東海道新幹線 ■ 東海道線(普通)

※各駅より新幹線「ひかり」号利用

※JR東海時刻表より抜粋。乗り換え時間等は含みません。

<編集後記>平成22年度から広報渉外委員会を務めましたが、あっという間に3年間の任期が終わろうとしています。

委員会メンバーは岐阜、滋賀、大阪、名古屋の大学に所属するメンバーでした。東海道沿いということもあり、「ひこにゃん」で有名な国宝の彦根城近く、滋賀県立大学で会議を行ったことがよい思い出となりました。今後、会員にとってホームページの果たす役割はますます大きくなると思われる。平成25年度～次期委員会にエール! (文責：浅野)